

日赤さいたま



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

埼玉県支部

2026 夏

vol. 157



特集

“苦しんでいる人を救いたい
その思いは
受け継がれている。”

第69回殉職救護員追悼式
(令和8年5月20日)

苦しんでいる人を救いたい。

その思いを、

過去から現在、

そして未来へ。



日本赤十字社埼玉県支部では、昭和27年から殉職救護員追悼式を執り行っています。戦時中に傷病者の救護活動に従事し殉職された32名の救護員を追悼するとともに、その志を次世代へ受け継ぐための行事として続けてきました。69回目を迎えた本年は、日本赤十字看護大学さいたま看護学部の学生が、当時と変わらない救護員制服を着用して献花を行いました。

Memorial — 追悼 —

32名の救護員へ、 祈りを捧げて。

埼玉県支部の慰霊碑には、戦時中、傷病者の救護活動に従事し殉職された埼玉県ゆかりの赤十字救護員32名のお名前が刻まれています。追悼式には、ご遺族や赤十字関係者が参列し、黙とうと献花を捧げました。

参列者一人ひとりが先人たちの歩みに思いを寄せ、平和の尊さと人道の精神を改めて胸に刻む機会となりました。

上左／殉職救護員慰霊碑。戦時救護に派遣された日赤救護班は、全国で960班、33,156名。埼玉県支部から派遣された日赤救護班は27班、676名にのぼり、その内32名が殉職した。

上右／追悼文を読み上げる支部長である大野元裕知事。



History — 歴史 —

大正時代に誕生した赤十字救護員制服は、今も受け継がれています。その洗練されたデザインには、「苦しんでいる人を救いたい」という先人たちの志が息づいています。看護学生たちは同じ制服に身を包み、人道の精神に思いを重ねました。



浦和駅前で戦地へ向かう赤十字救護員を見送る人々。万歳の声で送られ旅立った救護員たちの中には、故郷へ帰ることなく殉職された方々もいました。



赤十字救護員は、
過酷な状況下でも人道的使命を果たそうとし
尊い命をその職務に捧げました。



木村美喜氏(1928～2022)
16歳で赤十字救護員となり、第301救護班としてフィリピンへ派遣。帰還後は、自らの体験を通して命の尊さと平和の大切さを伝え続けました。

戦地で活動した赤十字救護員の証言

証言映像はこちら



Thought — 思い —

“ —

苦しんでいる人に寄り添い、そのいのちと健康を守ることは、看護の原点です。追悼式に参加した看護学生の姿に、人道の精神が次の世代へ受け継がれていることを感じました。



看護師同方会埼玉県支部長
小川赤十字病院看護部長

山崎 みつ江さん



看護学生

早川 綺美さん

“ —

救護員制服を着た瞬間、命を守ろうとした先輩方の思いを少しでも受け継いだような気持ちになりました。この経験を、今後の看護に生かしていきたいです。



看護学生

猪瀬 彩花さん

“ —

先人たちが命を懸けて守ろうとしたものの大きさと、その思いの重みを改めて感じました。この経験を胸に、人に寄り添える看護師を目指したいです。

Inheritance ∞ 継承 ∞

その思いは、 今も受け継がれている。

災害に備え、被災者に寄り添い、
苦しんでいる人を支えるために――。
先人たちから受け継がれてきた人道の精神は、
今日も災害救護の現場で生き続けています。



救護班要員研修 新たに任命された赤十字救護員を対象とした2泊3日の養成研修。実災害に向けた実践力を養う。



能登半島地震 孤立地域の避難所を巡回診療する医療チーム



東日本大震災 避難者の健康状態を確認する看護師



小川赤十字病院看護師長
大石 留美子さん

〃――

孤立した避難所で、お一人おひとりに
寄り添い活動する中で、「苦しんでいる
人を救いたい」という赤十字の思いの
大切さを、改めて心に刻みました。

私たちは、これからも
人々のいのちと健康、
そして尊厳を守るために
歩み続けます。

News & Topics

(ニュース&トピックス)

01

浦和レッズ所属選手が「いのちを守る赤十字」を体験

令和8年6月10日(水)、浦和レッズ所属の荻原拓哉選手と田中義峯選手が、日本赤十字社埼玉県支部に来訪。心肺蘇生やAEDの使い方を体験したほか、災害時に使用するエアートントの設営や災害救援車両の乗車、非常食づくりなどを通じて、災害救護活動への理解を深めました。



救急法を体験する荻原選手(左)と田中選手(右)

© URAWA REDS



浦和レッズの選手たちと記念撮影

© URAWA REDS

02

司法書士会・法務局と連携した終活セミナーを開催

埼玉司法書士会、さいたま地方法務局と連携し、遺言や相続をテーマとした終活セミナーを開催。100名が参加した会場は満席となり、遺贈・相続財産寄付を含む相談会にも20組が参加するなど、大変好評をいただきました。今年度も開催を予定しておりますので、ぜひご参加ください。

当日の様子はこちら



埼玉司法書士会



さいたま地方法務局



日本赤十字社

遺贈・相続財産寄付に関するパンフレットをご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。振興課TEL 048-789-7117

03

ご当地ハートラちゃん誕生

名産品の深谷ねぎをモチーフにしたデザインで、関連グッズは日赤サービスでお求めいただけます。



グッズの詳細はこちら



04

埼玉の赤十字活動を3分でご紹介

2025年の埼玉県支部の活動をまとめた動画をぜひご覧ください。

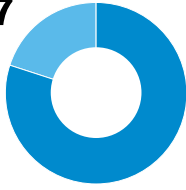


こちらからご覧ください



歳入合計額

777,777
[千円]



- 1 活動資金収入 623,000
- 2 事業収入・その他 154,777 [千円]

歳出合計額

777,777
[千円]



- 1 災害救護活動のため 89,642
- 2 救急法等普及・奉仕団活動・青少年赤十字活動等のため 141,326
- 3 国際救援活動のため 3,476
- 4 個人住民税控除寄付金を財源とした災害救護設備整備等のため 18,000
- 5 各市区町村での赤十字活動のため 53,549
- 6 赤十字会員の加入促進や広報活動のため 90,775
- 7 医療施設・社会福祉施設の基盤整備のため 48,100
- 8 災害対応や施設整備等にかかる積立金 117,322
- 9 業務運営管理や職員研修等のため 119,595
- 10 支部社屋の維持管理・修繕等のため 9,892
- 11 本社への操出金 83,100
- 12 予備費 3,000 [千円]



私たちの活動は、
皆さまの温かいご寄付に支えられています。

あなたに合った寄付の方法があります



銀行・郵便局窓口から

- 埼玉りそな銀行
口座：普通 50182 支店：さいたま営業部
名義：日本赤十字社埼玉県支部
 - 武蔵野銀行
口座：普通 66373 支店：県庁前支店
名義：日本赤十字社埼玉県支部
 - 埼玉県信連(JA)
口座：普通 12707 本店
名義：日本赤十字社埼玉県支部
 - ゆうちょ銀行
口座番号：00590-5-32000
口座名義：日本赤十字社埼玉県支部
- ※本誌に付属の払込取扱票をご利用のうえ、窓口でお手続きいただく場合は、払込手数料はかかりません。



相続財産寄付・遺贈 (故人のご遺志を形に)

- 相続財産のうち、寄付をされた部分には相続税がかかりません。
- 遺贈については、相続人の有無にかかわらず、故人の意志により、日本赤十字社埼玉県支部を遺贈先の一つとすることができます。
- 相続財産寄付・遺贈についての相談窓口として、埼玉司法書士会の専門家をご紹介します。

相続財産寄付・遺贈の方法を分かりやすくまとめたパンフレットをご用意しています。無料で郵送いたしますので、お気軽にお問い合わせください。



その他

- クレジットカード
- 口座振替
- PayPay、Amazon Pay
- ネットバンキング
- コンビニ決済
- ATM など

寄付のお申込はこちら



ご寄付に関するお問い合わせ
(相続財産寄付・遺贈を含む)



048-789-7117 (振興課)

ご不明な点はお気軽にお問い合わせください。

ご応募いただいた方の中から抽選で

**ハートラちゃんグッズ
プレゼント!**

ハートラちゃん
ぬいぐるみ(大)



1名様

3名様

ハートラちゃん
キャンバス
ミニトート



ご応募はこちら



応募締切

8月31日(月)

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。
※いただいた個人情報、プレゼントの発送およびご連絡にのみ使用いたします。